

都市と農村の交流の社会的意味と 都市と農村をつなぐ社会的企業家 「地域の力を引き出し、都市とつなげる人材」の育成

曾根原久司

NPO法人えがおつなげて 代表理事

山梨大学客員准教授

内閣府地域活性化伝道師

山梨県立農業大学校講師

ナチュラルポップオーケストラ主宰

関東ツーリズム大学設立準備中

1995年／山梨県北杜市白州町へ移住

個人として、農村事業(農林業・都市農村交流事業等)を開始する。

農村事業ノウハウの蓄積

2001年／NPO法人えがおつなげて設立

個人事業をNPO事業に移転していく。

自己紹介

我が家の窓から臨む南アルプス甲斐駒ヶ岳

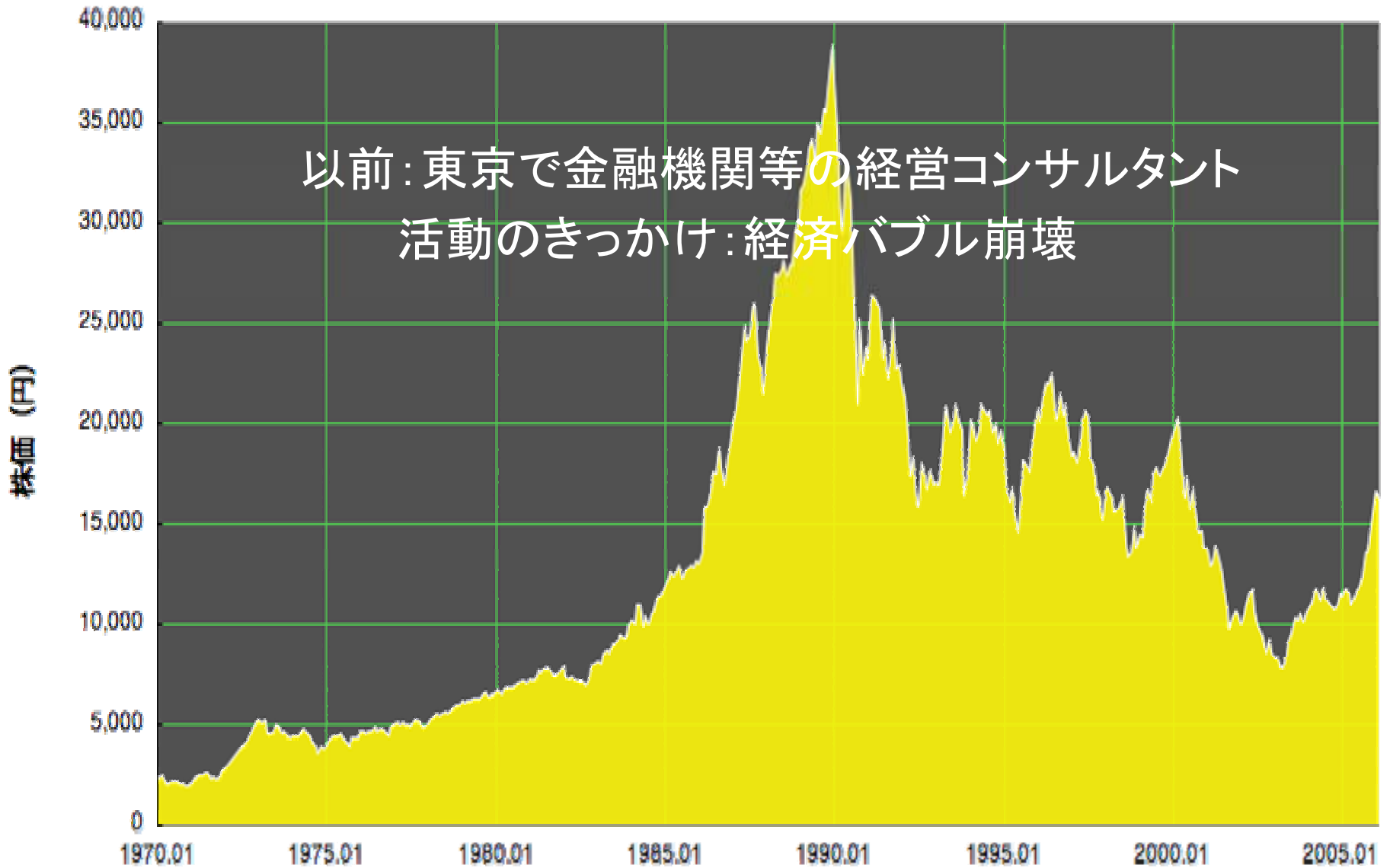
我が家の田んぼ



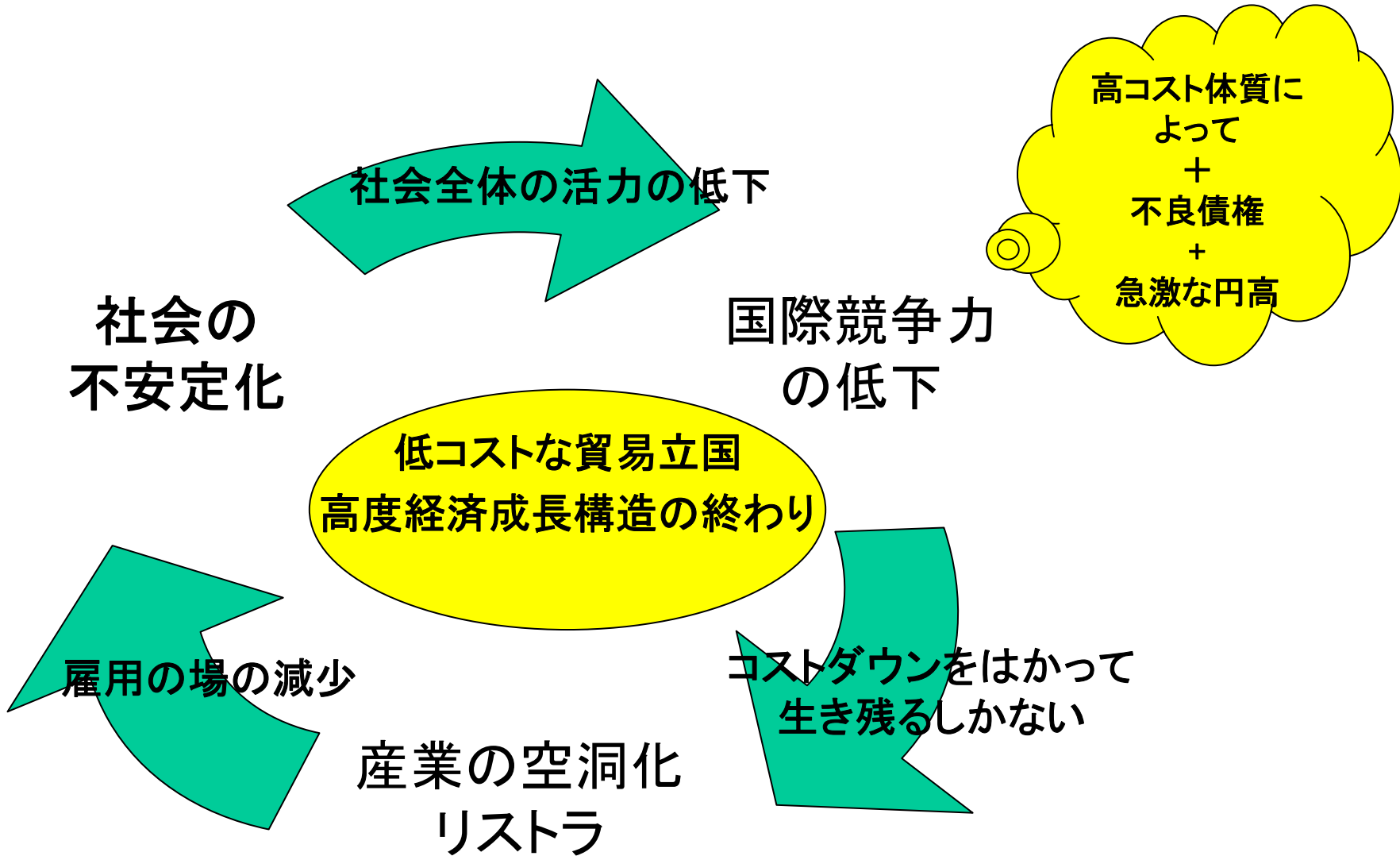
今年は豊作でした。



日経平均株価 (月末値)



経済バブルとその崩壊の意味



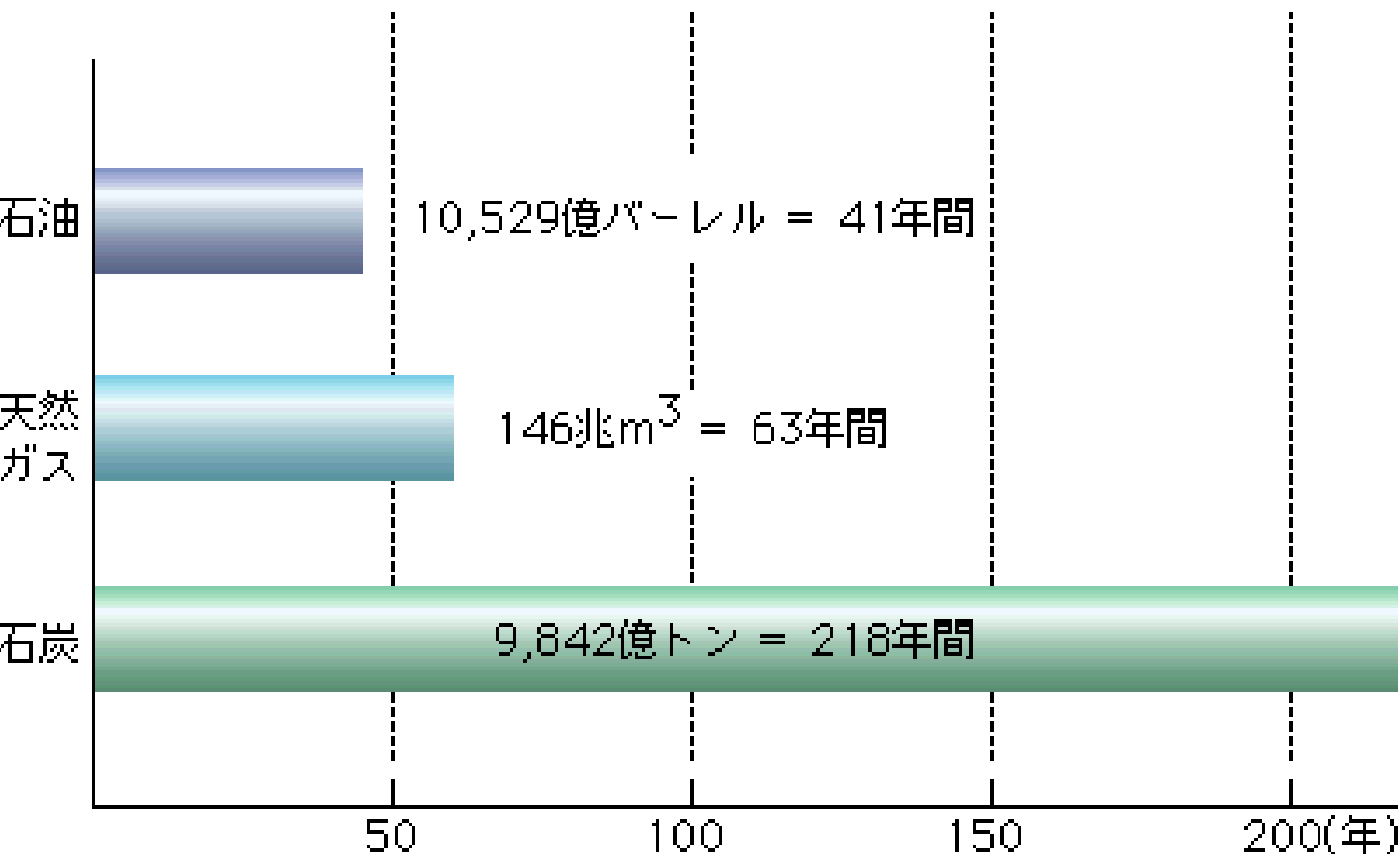
結果として、企業はグローバル化に進むだろう

都市農村交流の深い意味

現実化してきた日本のリスク

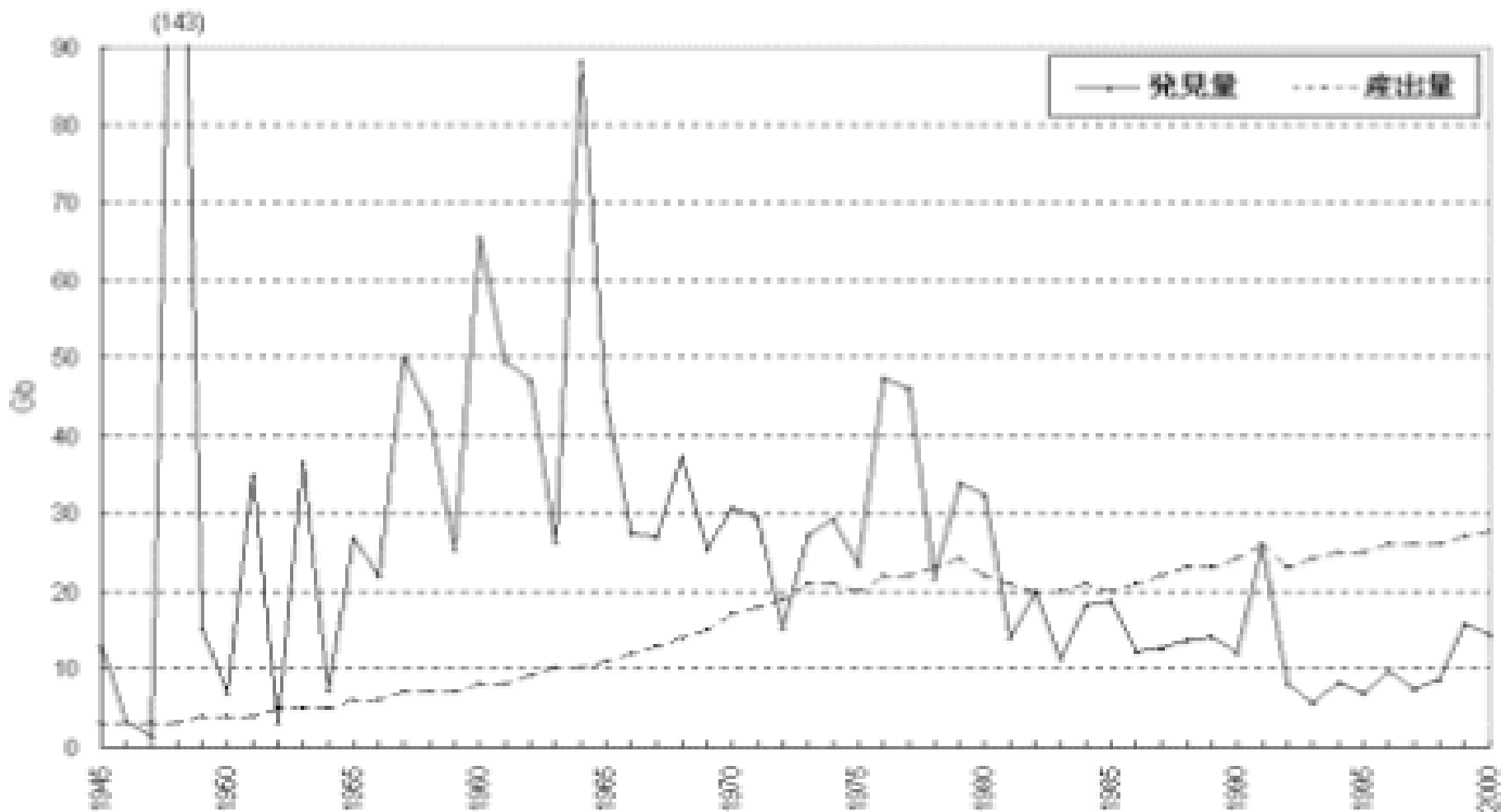
エネルギー問題

化石資源の寿命

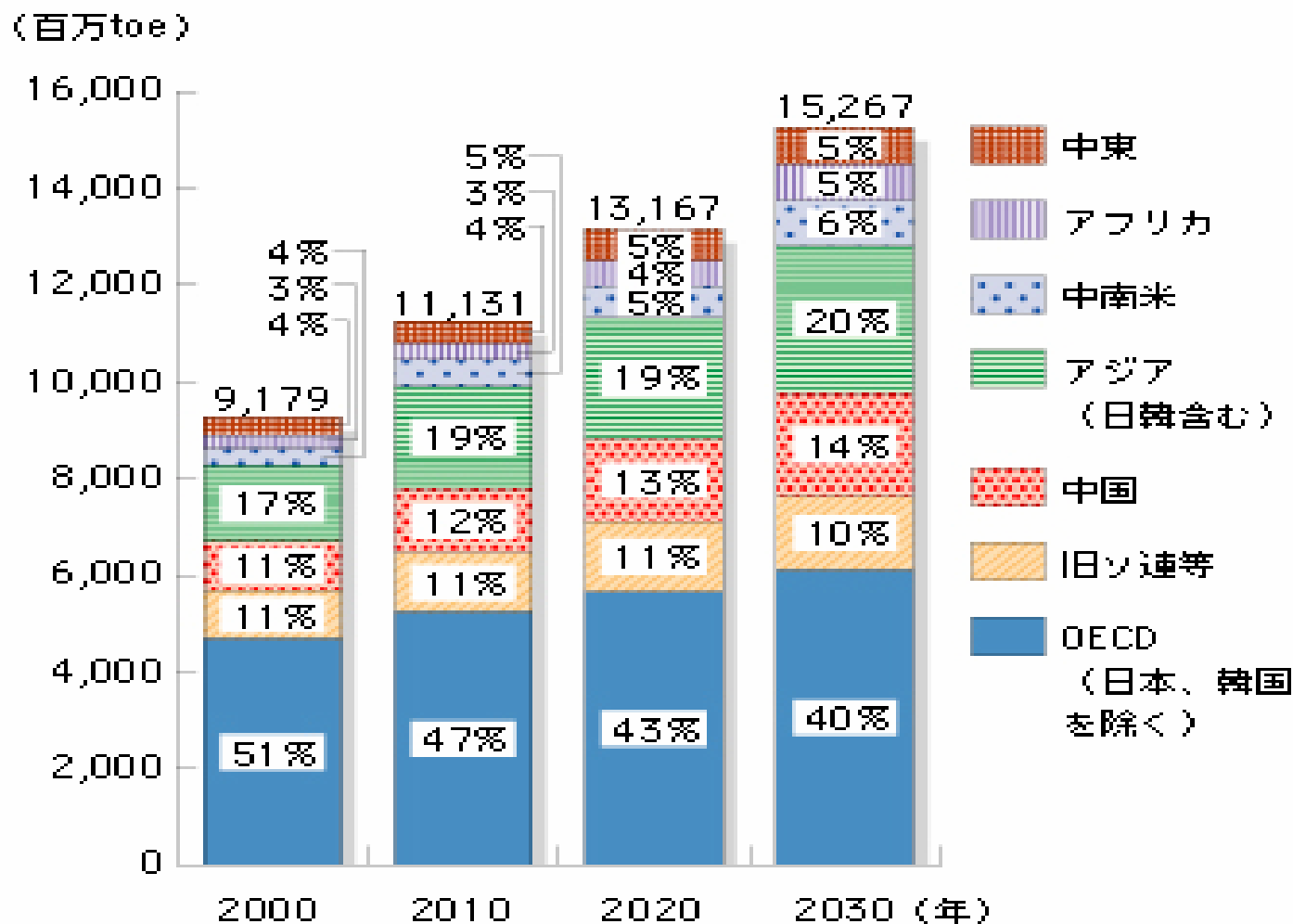


化石資源の寿命

石油発見と産出(1945年-2000年)



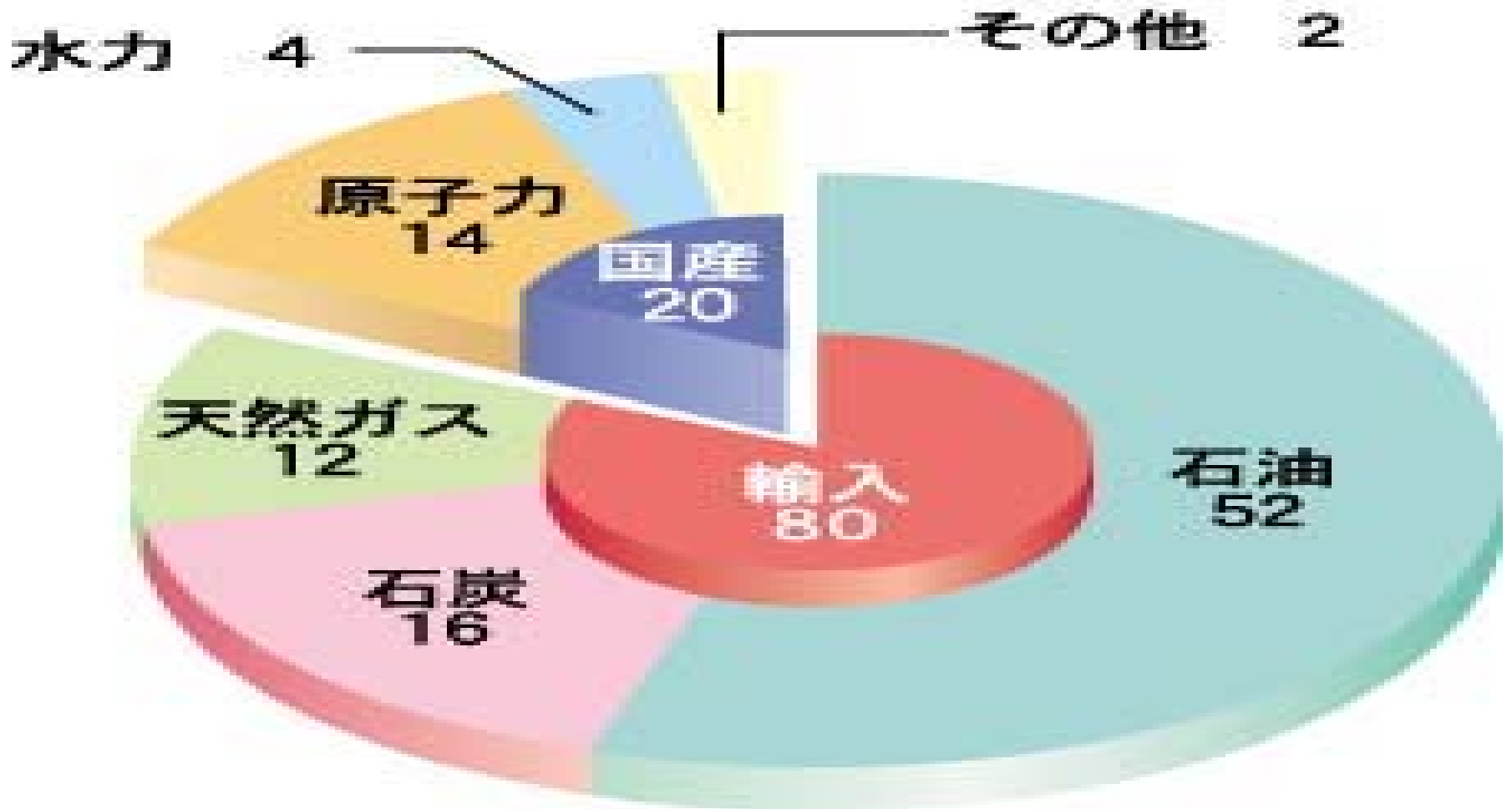
エネルギー需要予測



資料：IEA「World Energy Outlook 2002」

日本のエネルギーは大丈夫？

単位：%

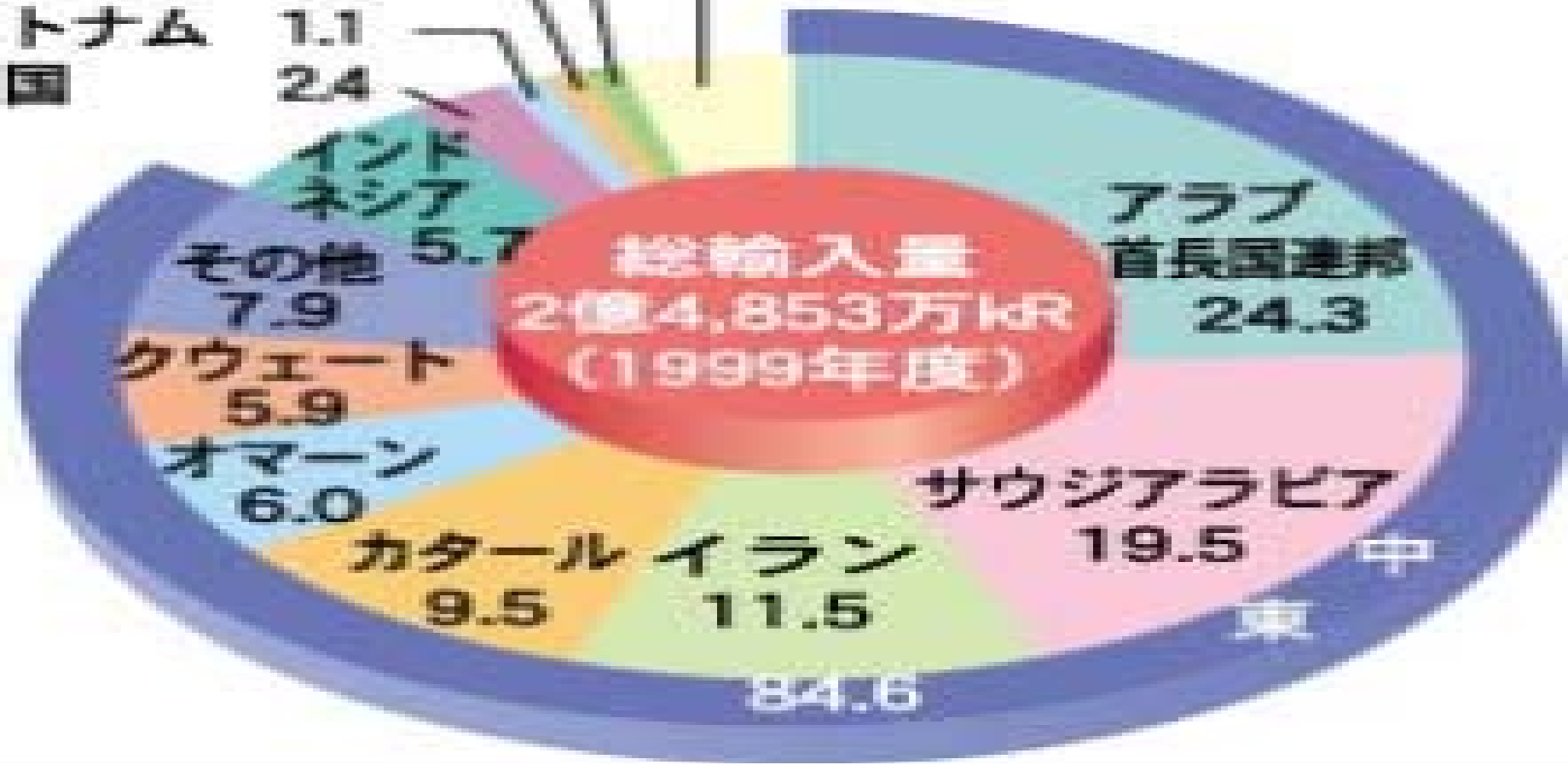


1998年度現在

日本のエネルギー自給は？

単位：%

その他 42
アメリカ 0.9
マレーシア 1.0
ベトナム 1.1
中国 2.4



世界のエネルギー事情とバイオ燃料

日本のエネルギー自給率 約4%(原子力除く)

エネルギーの石油依存度約50%
(うち、中東依存度、約90%)
(2億5000万kL/年の原油輸入)
(石油可採年数 残り約40年)

バイオエタノール生産
1位ブラジル・・・1700万kL
2位アメリカ・・・1500万kL
* 日本・・・30kL(目標50万kL)
(日本のガソリン使用料6000万kL)

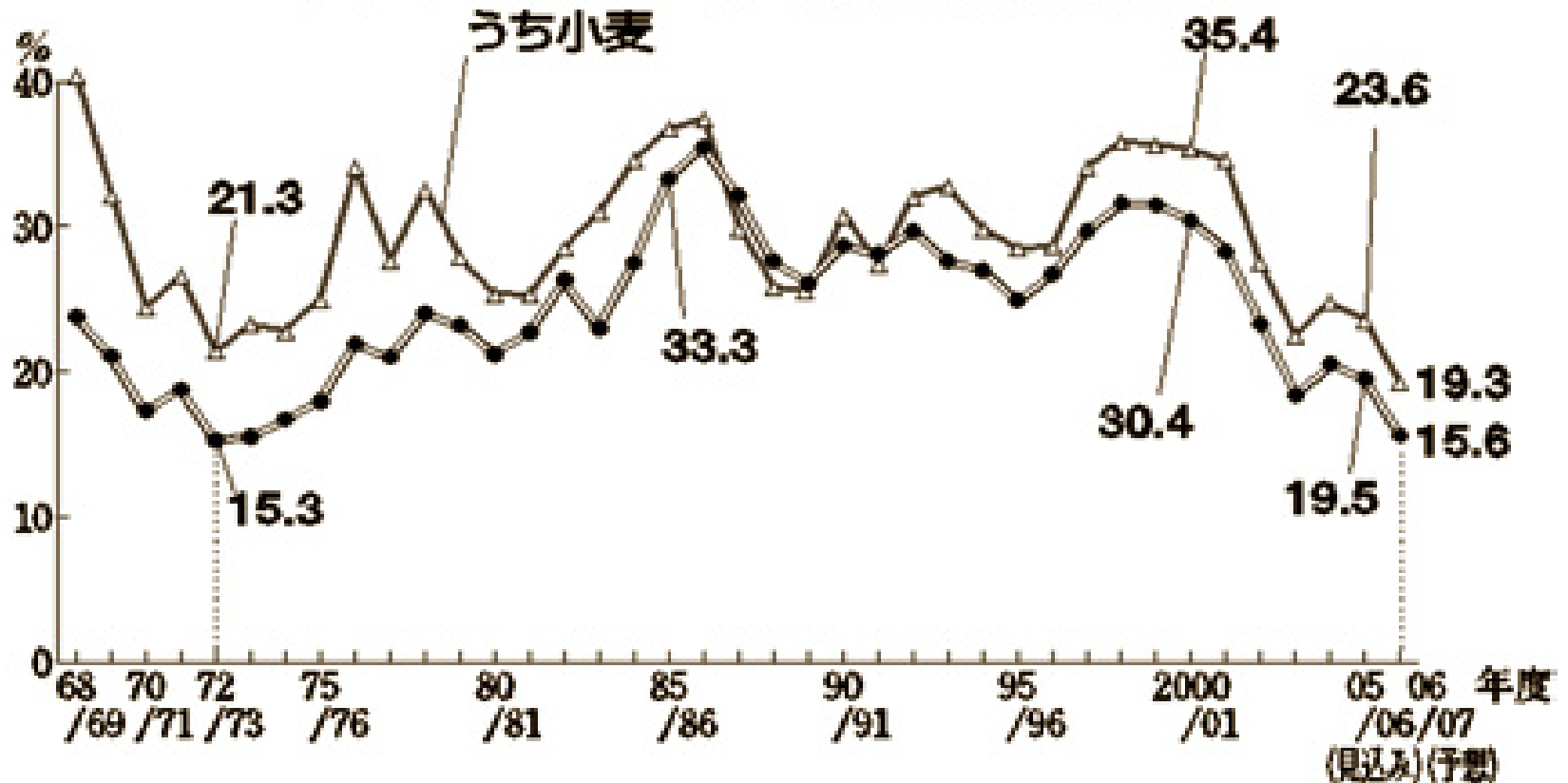
BDF生産
ドイツ・・・167万kL
EU・・・318万kL
(日本の軽油使用量3500万kL)
(日本の廃食油約45万kL)

穀物自給率 約28%

穀物価格の急騰

世界の穀物需給は逼迫

〈1970年代の水準に低下した穀物在庫〉

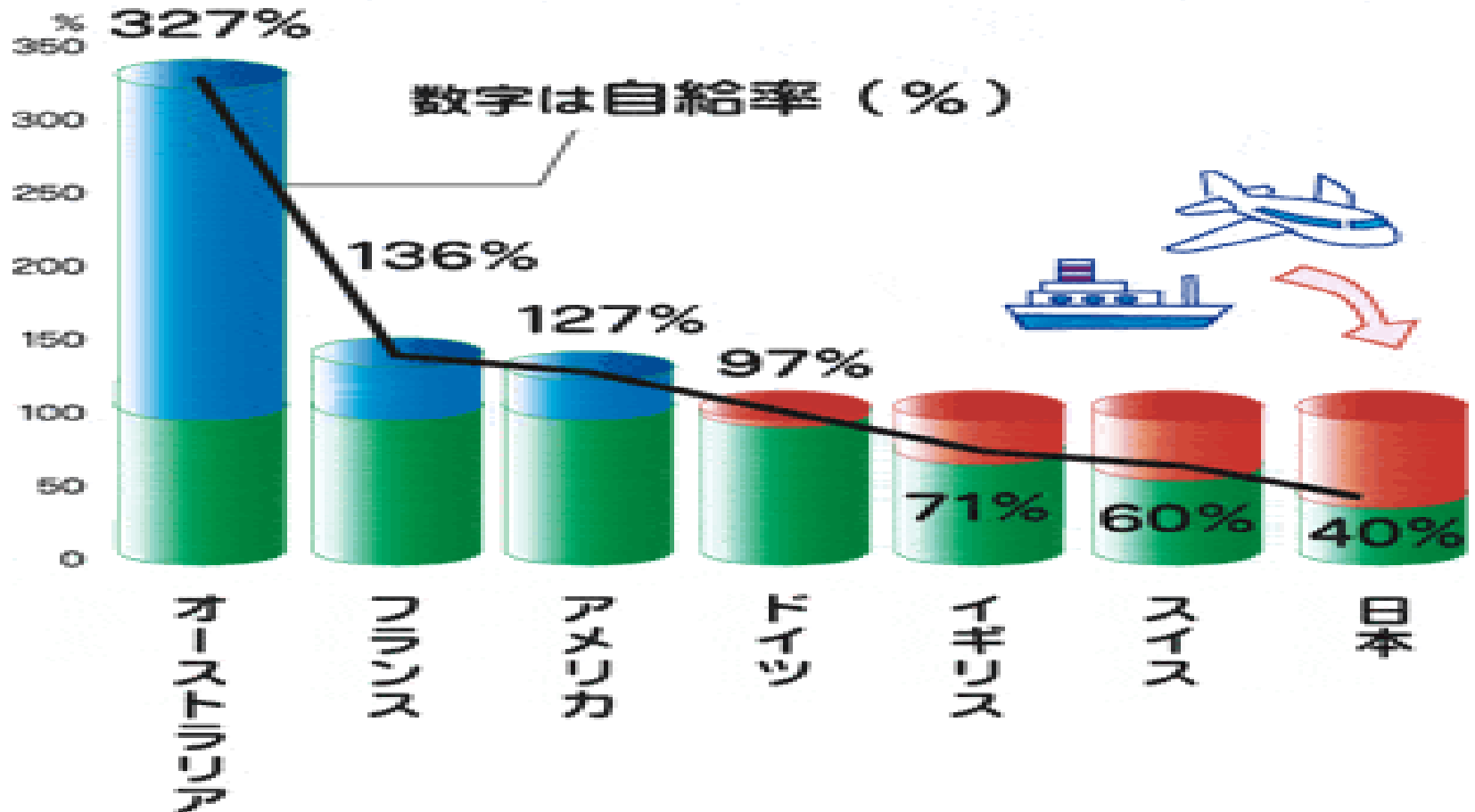


資料：農水省「海外食料需給レポート2005」世界の穀物・大豆の需給動向から
(元資料はアメリカ農務省)

世界人口 70億人間近



食糧自給率



食糧、飼料問題の兆候

日本の遊休農地→39万ha

開墾前遊休農地



開墾中



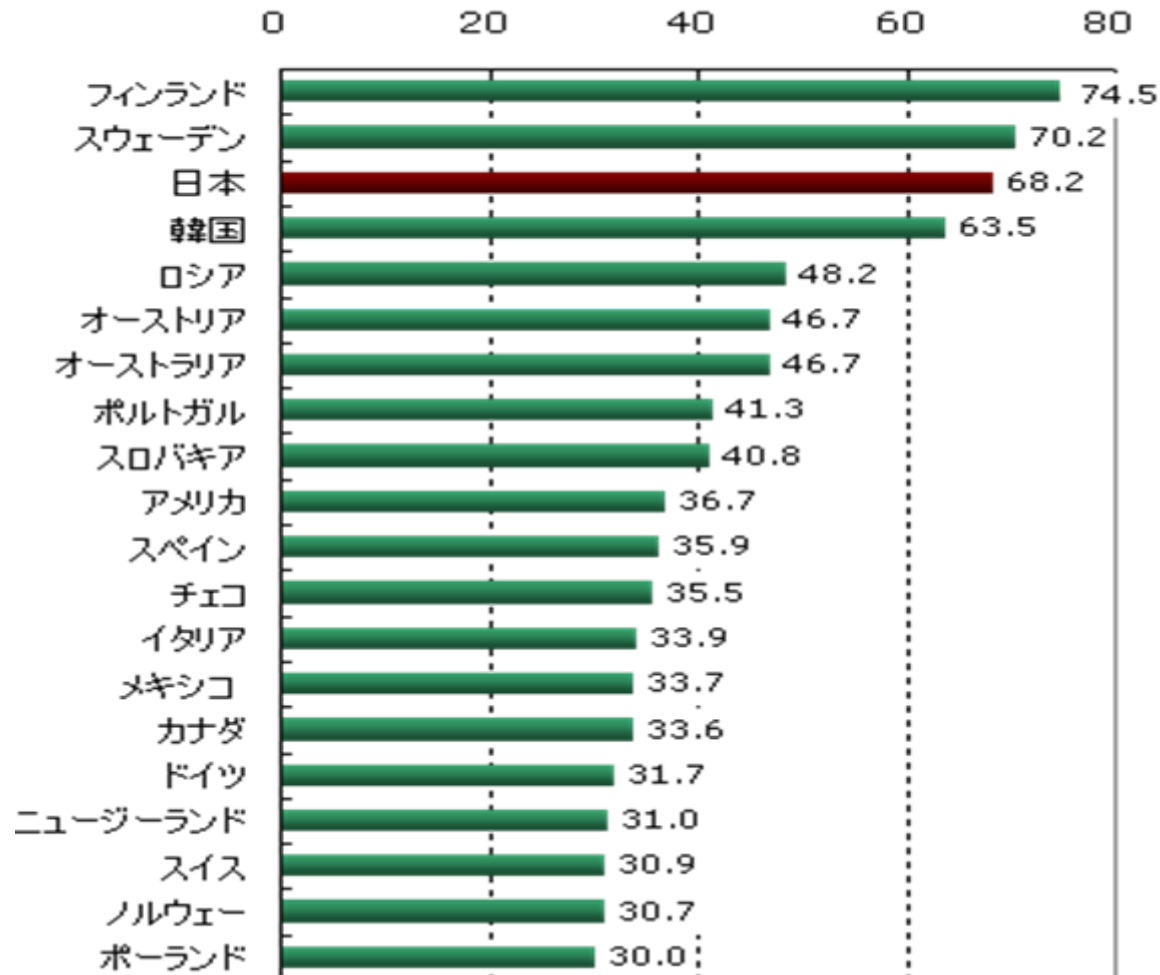
開墾後の活動



世界の森林率

世界の森林率

(%)



山梨県の森林バイオマス

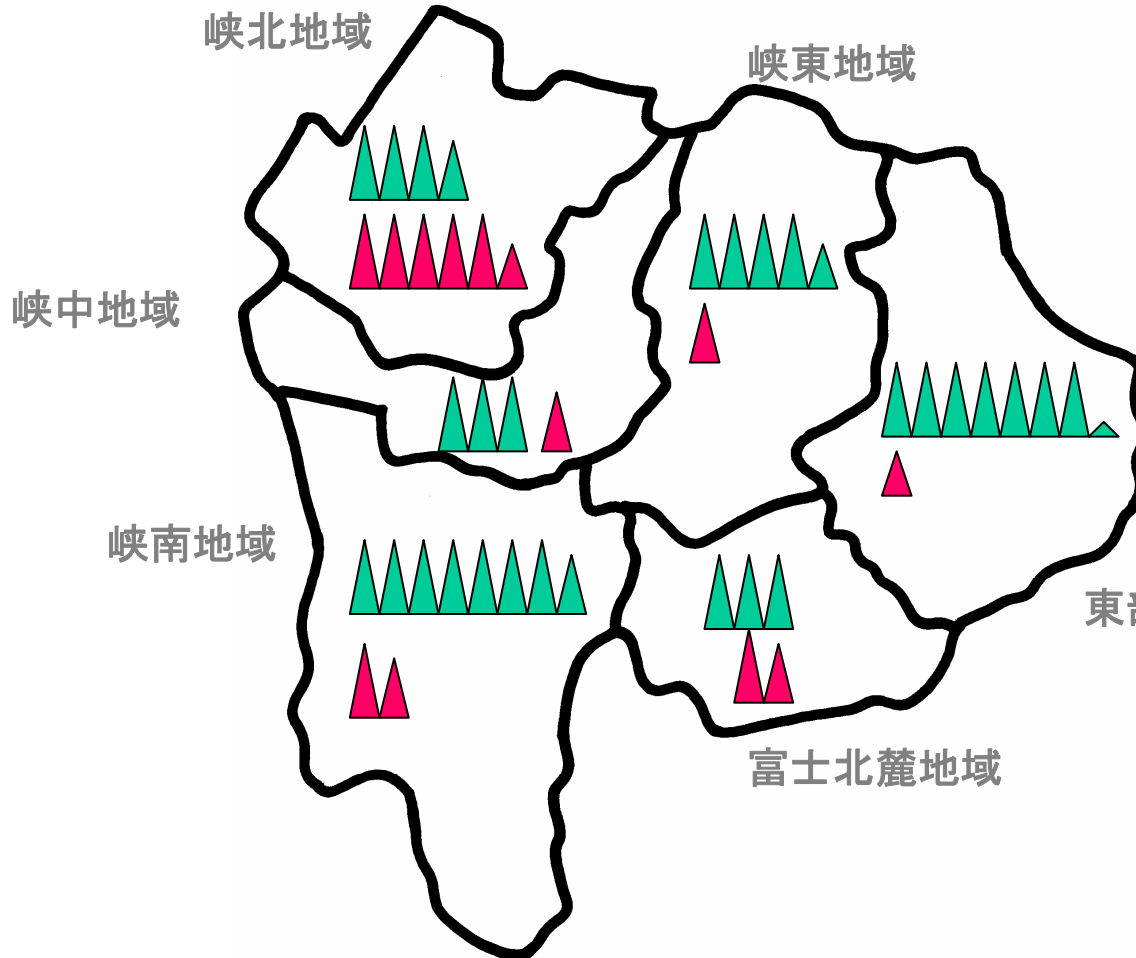
森林蓄積量 : 57,534,461m³

回収可能な範囲にある森林蓄積量: 2,180,354m³

(山梨県GISデータを基に算出)

回収可能な範囲: 制限林・保安林等を除いた林地のうち、

- ・標高1400m未満
- ・路網からの距離: 200m以内(傾斜20°未満)
- 100m以内(傾斜20°~35°未満)
- 30m以内(傾斜35°以上)



森林蓄積量 ▲ = 200万m³

回収可能な範囲にある森林蓄積量 ▲ = 20万m³

木質廃棄物

製材所残材	9,500	ton/年
東電伐採*	15,000	ton/年
不動産開発伐採	400	ton/年
しいたけ廃菌床	850	ton/年
きのこ廃菌床	1,400	ton/年
果樹剪定枝	28,000	ton/年
建設廃棄木材	33,000	ton/年
林地残材	69,500	ton/年

*: 送電線保護のための伐採

森林資源の実態

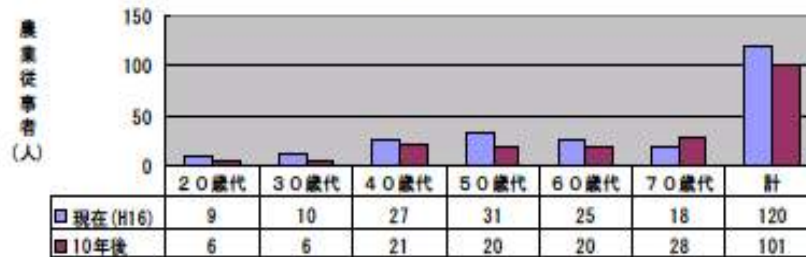


農村は資源はあるが、
じじばばと
サルとイノシシとポチの世界

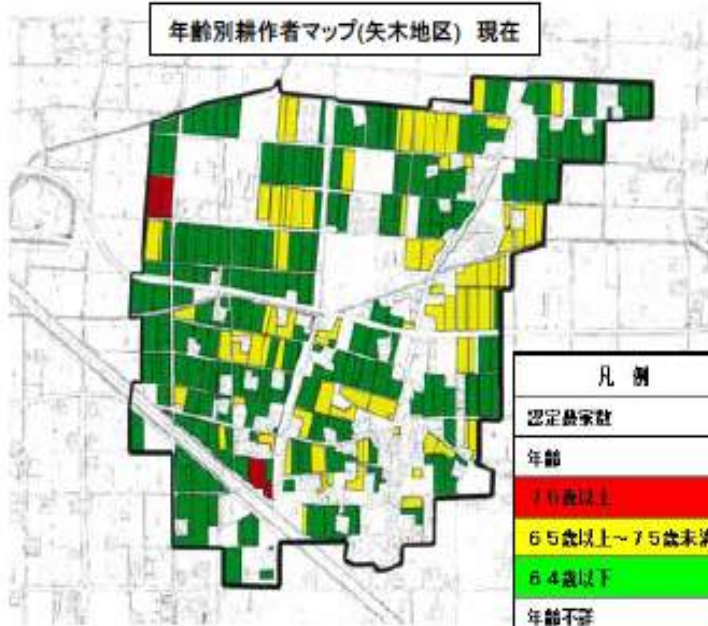
農村の今後・・・過疎化高齡化 担い手不足

○農業従事者年齢構成の推移予測

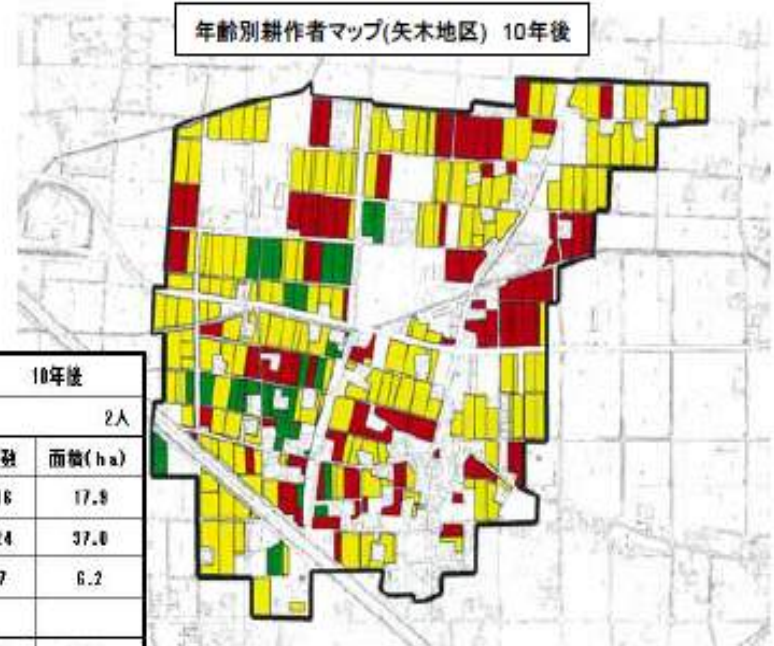
農業従事者年齢構成の推移予測



年齢別耕作者マップ(矢木地区) 現在



年齢別耕作者マップ(矢木地区) 10年後



凡 例	現在		10年後	
	人数	面積(ha)	人数	面積(ha)
認定農家数	2人		2人	
年齢	人数	面積(ha)	人数	面積(ha)
75歳以上	8	1.8	16	17.9
65歳以上～75歳未満	13	16.6	24	37.0
64歳以下	31	43.2	7	6.2
年齢不詳	47	61.1	47	61.1

資源インフレ時代における 低い自給率の日本の運命は いかに！

食糧自給率39%

穀物自給率28%

(家畜の飼料穀物の自給率10%)

※木材自給率20%

※エネルギー自給率4%(原子力除く)

さて、どうするか？

農村資源に、
新たなニーズを結びつけて
バリュー(価値)をつけて、
ビジネスモデルを創る。

農村に対するニーズ

都市住民の田舎暮らし、農村志向

図4 共生・対流に対する実践の願望

